

2023.06.22. 木曜礼拝「忠実、誠実であること 道を踏み外さない」Leitu 牧師

共に祈りませんか？ 主よ、今晚私たちはあなたを歓迎します。主よ、私たちと共に居てください。主よ、キリストにある兄弟姉妹が集い、交わり、礼拝し、あなたへ賛美を歌うことができることを感謝します。しかし何よりも、主よ、あなたの御言葉を聞くことです。今晚、私たちにお語り下さい。私たちの体から不安を取り除いていただけませんか？ 主よ、私たちに明瞭な思考と心を与えてください。主よ、お語り下さい。私たちは耳を傾け、待ち望んでいます。イエスの偉大な御名によって祈ります。アーメン。アロ〜ハ！ ここ礼拝堂にいる皆さん、オンラインの皆さん、カルバリーチャペルカネオへにようこそ。どうぞお座りください。神の御言葉に入りましょう。JD 牧師は必要な休養を取っています。続けて彼のためにお祈りください。アーメン？ 今夜はヨシュア記 1 章 10 節から 18 節までです。私はこのメッセージのタイトルを『忠実で、誠実であること：道を踏み外さない』としました。始める前に祈りましょう。お父さま、私たちはあなたの御座の前に行き、あなたの御言葉に感謝します。主よ、あなたは私たちに教え、導き、指導してください。あなたの御言葉に本当に感謝しています。あなたの御子イエス・キリストに感謝します。十字架に感謝します。私たちは十字架を、あなたが私たちのためにして下さったことを決して忘れません。私たちが救いを得ることができるように、あなたの御子を遣わしてくださいました。主よ、あなたが十字架にかからなければならなかった私たちの背きと罪をお赦してください。イエスさま、あなたを苦しめた私たちをお赦してください。あなたの聖霊が私たちの中に入り、私たちに封印し、栄光から栄光へと変え、私たちに導いてくださることを感謝します。主よ、今夜私たちに御言葉に導いてください、イエスの御名によって祈ります。アーメン。約束の地に向かう出エジプトはほぼ完了しました。ヨシュア記は神の任命から始まりました。モーセが死に、今度はヨシュアがイスラエルの民を率いることになりました。川を渡ったら、その地を征服し、イスラエルの 12 部族に分け与えなければなりません。先週、3 節から 9 節で、主はヨシュアに命じられました。神はヨシュアに、「強くあれ、雄々しくあれ」と仰います。主は 3 度、その命令を繰り返されました。励まされ、力づけられ、ヨシュアは前進します。彼はそのプロセスを開始するために最初の命令を下します。ヨシュア記 1 章 10 節から 11 節。

ーヨシュア 1:10ー

ヨシュアは民のつかさたちに命じた。

ーヨシュア 1:11ー

「宿営の中を巡って、民に命じなさい。『食糧を準備しなさい。三日のうちに、あなたがたはこのヨルダン川を渡るからだ。あなたがたの神、主があなたがたに与えて所有させようとしておられる地を占領するために、あなたがたは進むのだ。』」

ヨシュアはモーセの下で軍事将軍を務めました。今や彼は一国の指導者です。唯一の真の生ける神が彼を導いておられます。そこで彼は、民を移動させる準備を整えるよう兵士たちに指示しました。ヨシュアの命令は確信と勇気とともに与えられました。神は彼に必要な勇気と確信を備えておられます。旧約聖書の中にも、神の好意、すなわち神が困難に陥った民をどのように導かれるかについて、同じような例を見ることができます。イスラエル人は 2 つの国に分裂しました。北はイスラエル、南はユダ。アッシリアは当時、力強い支配者でした。アッシリア軍はすでにイスラエルを占領し、ユダを征服しようとしていましたが、敬虔な王が治めています。ヒゼキヤ王は良き王であり、神を愛する心を持っていました。ヒゼキヤ王は、アッシリアの王セナケリブに立ち向かいました。アッシリア国がユダの地を侵略しようとしています。第二歴代誌 32 章 6 節から 8 節です。

—II 歴代誌 32:6—

彼は民の上に戦時の隊長を立て、彼らを町の門の広場に招集し、激励して言った。

—II 歴代誌 32:7—

「強くあれ。雄々しくあれ。アッシリアの王や、彼とともにいるすべての大軍を恐れてはならない。彼とともにいる者よりも大いなる方が、私たちとともにいてくださるからである。

—II 歴代誌 32:8—

彼とともにいる者は肉の腕だが、私たちとともにおられる方は、私たちの神、主であり、私たちの戦いを戦ってくださる。」民はユダの王ヒゼキヤのことばによって力づけられた。

このアッシリアの大軍を前にして、ヒゼキヤは祈りました。その夜、主は御使いを遣わされ、18万5千人のアッシリア人が死にました。衝撃と信じられない思いで、アッシリア人はニネベに引き返しました。その後、アッシリア王の息子が自分の父親を殺しました。私たちは、勇気や強さといった特性は自分自身から生まれるものだと考えがちです。神はあなたを神の目的に合うように創造されたことを忘れないでください。どのような資質であれ、私たちが得るものは主から来るものです。アーメン？それが知性であれ、運動能力であれ、リーダーシップであれ、あるいはその他の賜物であれ、神は私たちをキリストの体の中で神の目的に合うように組み合わせてくださいます。私たちは、主が与えてくださった能力にいつも感謝すべきです。ヨシュアは、神が以前にモーセを通して語られたことを思い出しました。

「右や左を向いてはならない。協道にそれてはいけない。目の前の任務に集中すれば、あなたは栄える。」200万人が3日以内に移動できるように準備する必要があります。特に大国にとっては大仕事です。「ロジスティクス/物流」という言葉は、私にとってなじみのある言葉です。この言葉は、多くの人、施設、または物資を含む複雑な活動の詳細な調整を意味します。クリスチャンとして、私はホームレス支援活動に参加してきました。職場には「キリストのための港湾労働者 (Stevedores for Christ)」と呼ばれるグループがあり、救われて主に仕えている人々です。私たちは毎週火曜日に職場で聖書の学びをし、ホルルのマトンのターミナル近くのビーチに集まっていました。毎年、感謝祭にはホームレスの人たちに食事を提供しました。職場や教会からギター、ドラム、キーボード、歌い手たちを集めて、ビーチで賛美チームを結成しました。大きなテントに椅子とテーブルが並べられました。たくさんの食べ物が持ち込まれ、誰でも食べるができるようにしました。衣類、洗面用具、缶詰などが寄付されました。寝袋や毛布もありました。ラッセル・タッカー牧師は福音のメッセージを語り、祈りました。人々は救われていました。主が人々を連れてきてくださったので、いつも多くの参加者が集まりました。私たち一人ひとりが、この任務のために主から召されていました。誰もが自分の役割を果たし、毎年、祝福でした。祝福と奉仕を受けたのはホームレスだけではなく。人々が救われるのを目の当たりにし、私たちは祝福されました。ホームレスの世話をしていたので、私たちは祝福されました。私たちは今年もこの感謝祭の支援活動を行います。神の御言葉は、貧しい人々に心を配るようにと教えています。神は旧約聖書の「申命記 15 章 7 節から 11 節」で私たちに語っておられます。

—申命記 15:7—

あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地で、あなたのどの町囲みの中でも、あなたの同胞の一人が貧しい者であるとき、その貧しい同胞に対してあなたの心を頑なにしてはならない。また手を閉ざしてはならない。

—申命記 15:8—

必ずあなたの手を彼に開き、その必要としているものを十分に貸し与えなければならない。

—申命記 15:9—

あなたは心によこしまな考えを抱き、「第七年、免除の年が近づいた」と言って、貧しい同胞に物惜しみして、何も与えないことのないように気をつけなさい。その人があなたのことで主に叫ぶなら、あなたは罪責を負うことになる。

—申命記 15:10—

必ず彼に与えなさい。また、与えるとき物惜しみをしてはならない。このことのゆえに、あなたの神、主は、あなたのすべての働きと手のわざを祝福してくださるからである。

—申命記 15:11—

貧しい人が国のうちから絶えることはないであろう。それゆえ私はあなたに命じる。「あなたの地にいるあなたの同胞で、困窮している人と貧しい人には、必ずあなたの手を開かなければならない。」

イエスは、マタイの福音書 25 章 34 節から 40 節でこう仰います。

—マタイ 25:34—

それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。』

—マタイ 25:35—

あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

—マタイ 25:36—

わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』

—マタイ 25:37—

すると、その正しい人たちは答えます。『主よ。いつ私たちはあなたが空腹なのを見て食べさせ、渴いているのを見て飲ませて差し上げたでしょうか。』

—マタイ 25:38—

いつ、旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せて差し上げたでしょうか。』

—マタイ 25:39—

いつ私たちは、あなたが病気をしたり牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』

—マタイ 25:40—

すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』

イエスは貧しい人々に心を配られ、イエスに従う者たちにも貧しい人々に心を配ることを望んでおられました。ここ教会には、恵まれない人々を助けている人がたくさんいます。教会が一つになり、主に仕え、恵まれない人々を愛するために奉仕する姿を見るのはすばらしいことです。さまざまな家庭での聖書の学びが島中で行われています。聖書、缶詰、温かい食事、神の御言葉、神の愛、その年にクリスマスプレゼントをもらえないかもしれない子どもたちにクリスマスプレゼントを贈ること、ワイマナロ、ワイアナエ、ワヒアワなどの地域に手を差し伸べること。神のしもべたちが貧しい人々に施すのを見るのは美しいです。たいていの場合、ボランティアは何をすべきか分かりませんが、聖霊が彼らの歩みを導くのを目にします。オンラインで聞いている多くの人たちは、ここアメリカでも、そして世界中でも、それぞれ

のアウトリーチを行なっています。奉仕活動であれ、アウトリーチを企画すること、あるいは道行く人に1ドルを渡すことであれ、あなたの努力と愛を主が祝福してくださることを私は知っています。聖霊があなたに仕え、与えるよう促されるとき、あなたは心を開き、持たない人々を愛してください。あなたがそうするとき、祝福されます。ヨシュアは將軍たちに移動を命じました。私たちには、これは物流の悪夢のように見えるかもしれません。動く部品が多いと、責任も重いです。200万人以上を移動させ、テントや食料、すべての荷物を梱包する物流を想像してみてください。幕屋は天幕でできた美しい神殿でした。ソロモンの美しい神殿は、後にエルサレムに建てられることになります。しかし、今は幕屋です。レビ人はこの幕屋にすべての用具を詰めなければなりませんでした。最も重要なものは「契約の箱」でした。3日後には移動することになります。しかし、イスラエルの民は40年間これを続けていました。神は煙の柱で彼らを導いておられたことを私たちは覚えています。煙の柱が動いたら、それに従ってください。神が導いておられるのであり、神が導かれるところには、神が備えておられるからです。民数記9章22節。

一民数記 9:22一

二日でも、一月でも、あるいは一年でも、雲が幕屋の上にとどまって、去らなければ、イスラエルの子らは宿営を続けて旅立たなかった。しかし、雲が上ったときは旅立った。

一民数記 9:23一

彼らは主の命により宿営し、主の命により旅立った。彼らはモーセを通して示された主の命により、主への務めを守った。

雲はある場所に2日間留まることもあれば、1カ月、1年以上滞在することもありました。雲が動くたびに、イスラエルの民は宿営を解体しなければなりませんでした。巨大な宿営地を設置したところで、神が「行きなさい」と仰るのを想像してください。幕屋の上の雲が動き出します。設営が終わったばかりで、まだ2日しか経っていないのに。今、あなたはその大変な仕事を再びこなさなければなりません。だからヨシュアとイスラエル人は物流について知っています。彼らは組織化されていて、誰もが何をすべきかを知っていました。そこでヨシュアは力強く、兵士たちに準備を整えるよう命じます。確信を持って、彼は言います。「私たちはこのヨルダン川を渡る」数十年前のカデシュ・バルネアでの光景とは異なり、行くか行かないかの合意はありませんでした。「ダメ」と言った10人の使者と、「進め」と言った2人の使者はいませんでした。主が語られ、ヨシュアは「はい」と答えました。これが新しい世代のイスラエル人です。彼らは約束の地のことを聞き、そこに入りたいと熱望しました。彼らは神が彼らにこの地を与えられた歴史を知っていました。神から与えられたものを主張するために、彼らは戦いに備えているのです。彼らは待ちきれず、ワクワクしています。彼らは荒野のあちこちを移動し、雲の柱を追って設営しては撤去するのに疲れています。イスラエルの民は、ようやく定住する準備が整っています。彼らは疲れ果てていて、根を張りたいたっていました。彼らは征服する地が自分たちのものだと思っています。彼らはアブラハム、イサク、ヤコブの子孫です。必要であれば、究極の犠牲を払うことも覚悟しています。この地に入り、土地を奪うための認可がついに下りたのです。荒野で死んだ長老たちとは違って、彼らは若い男女でした。彼らは200万人以上の力があり、出て行くことを熱望しています。ヨシュアとカレブは宿営の中で最年長でしたが、最も賢明でした。イスラエルの民は、100通りの調理法で作られたマナに飽きてしまいました。彼らは羊を飼い、ラムやスネ肉、フムスを食べたいと思っています。パンを作るために野菜や穀物を育てたいのです。彼らはワインを作るためにブドウ園を作りたいのです。オリーブを

栽培し、油注ぎの油や食用油を作りたいのです。 ヨシュア記 1 章 12 節から 13 節に進みます。

ーヨシュア 1:12ー

その一方で、ルベン人、ガド人、およびマナセの半部族にヨシュアは言った。

ーヨシュア 1:13ー

「主のしもべモーセがあなたがたに命じて、『あなたがたの神、主はあなたがたに安息を与え、この地を与えようとしておられる』と言ったことばを思い出しなさい。

これはヨシュアにとって争いの種であり、居心地の悪い瞬間です。ルベン、ガド、マナセの部族は神を怒らせました。彼らが立っている土地は、彼らが戦わなければならなかったものです。ヨルダン川の東側にあります。彼らは、モーセがしぶしぶこれらの部族に与えた土地に立っています。つまり、この3つの部族はある意味、すでに故郷なのです。彼らは自分たちが定住したかった土地に立っています。これはモーセが生きていたときに彼らに言った言葉です。なぜモーセがこれらの部族にあれほど怒ったのかがわかるでしょう。民数記 32 章 1 節から 5 節にこのことが書かれています。

ー民数記 32:1ー

ルベン族とガド族は、多くの家畜を持っていた。それは、おびたしい数であった。彼らがヤゼルの地とギルアデの地を見ると、その場所は家畜に適した場所であった。

ー民数記 32:2ー

そこでガド族とルベン族は、モーセと祭司エルアザル、および会衆の上に立つ族長たちのところに来て、次のように言った。

ー民数記 32:3ー

「アタロテ、ディボン、ヤゼル、ニムラ、ヘシュボン、エルアレ、セバム、ネボ、ベオン、主がイスラエルの会衆の前で打ち滅ぼされたこれらの地は、家畜に適した地です。そして、しもべどもには家畜がいます。」

ー民数記 1:5ー

また言った。「もし、私たちの願いがかないますなら、どうか、しもべどもがこの地を所有地として賜りますように。私たちにヨルダン川を渡らせないでください。」

一見すると、これらの箇所は無実のように見えます。しかし、深く掘り下げていくと、問題が見えてきます。自己中心、貪欲、不誠実、中途半端な献身。イスラエルはヨルダン川の東の地を征服しました。イスラエルの民は数カ月間、宿営していました。彼らは川を渡るため、主からのことばを待っていました。ここは肥沃な土地で、家畜を育てるのに適していました。そして、この3部族の指導者たちは、この土地を欲しがりました。彼らはルベン、ガド、マナセの半部族の出身でした。肥沃な土地とそれが生み出す可能性を見ました。彼らが目にしたのは緑一色でした。この土地は約束の地の一部ではなく、彼らはそれを知っていました。神は子どもたちに約束の地に渡るようにと言われました。しかし、貪欲な彼らは、経済的利益の可能性に目を奪われてしまいました。貪欲さゆえに、彼らの目はその土地に注がれていました。悲しいことに、彼らはこの土地を手に入れるために妥協さえするのです。彼らはモーセに、自分たちが受け継ぐ土地について話しました。彼らは神をもその方程式に組み入れました。この地はイスラエルに敗れた神の地であると彼らは主張しました。確かに神はヨルダンの東の敵を打ち破られましたが、約束の地はヨルダンの西でした。神はそこにご自分の子たちが行き着くことを望んでおられました。結局、この3部族はこの土地に定住しました。その歴史を通じて、彼らには問題がありました。肉体的にも霊的

にも、敵は絶えず彼らに襲いかかってきました。この土地は悪霊で満ちていました。ここは、イエスが悪霊に憑りつかれた人を癒された土地です。5節で、彼らの心が露わになりました。もう一度読みます。

ーヨシュア 1:5ー

また言った。「もし、私たちの願いがかないますなら、どうか、しもべどもがこの地を所有地として賜りますように。私たちにヨルダン川を渡らせないでください。」

言い換えてみましょう。「モーセ、すべてが良いのなら、どうかこの土地を私たちに与えてください。ところで、あなたと共に、私たちにヨルダン川を渡らせないでください。」つまり、「他の部族は行って戦ってください。私たちはここに留まり、快適に家族を育てます。」彼らは妥協、不誠実、臆病、神の召しに対する献身の欠如という罪を犯しました。神は世の中の妥協の罪について警告しておられます。世に目を向けるとき、天を見失ってしまいます。特にこの世から解放された信者にとっては、この世はとても魅力的なものです。私たちの人生は変わり、偉大な新しい人生を経験します。私たちは毎週日曜日、木曜日も教会にいます。過去からのきっかけが私たちの興味をかき立てます。ハーフタイムのビールのCMかもしれません。もしかしたら、インターネット上に出てくるサイトかもしれません。あるいは、誰かが一攫千金を狙っているのかもしれません。誘惑に負けてしまうことは、クリスチャンである私たちにとって、特に素晴らしい人生の変化があったときには、とても悲惨なことです。私はクリスチャンの友人がこの世に戻り、二度と帰ってこないのを何度も見てきました。彼らは救われているのでしょうか？ 私は祈り、そう願っています。神だけが知っておられます。もしかしたら、最初から彼らには誠意がなかったのかもしれません。また、主のもとを離れたものの、戻ってきた友人もいます。私は45歳の時に救われました。もっと早くキリストに人生を捧げていればよかったと思います。私はいつも、神なしで苦しんだ長い年月を思い返します。一つ感謝しているのは、少し変に聞こえるかもしれませんが、この世界で過ごした時間の長さ嬉しく思います。長い間苦しんできて良かったです。イエスなしではどんなに苦しかったかを覚えているからです。苦しみの時間は、私が二度と戻らないためのきっかけとなりました。もうあんな生活には戻りたくありません。今の私にとって、世の中には何もありません。世の中は、イエスであるすべてのものと敵対しています。アーメン？ 二度とそこには戻りたくありません。もうたくさんです。マタイの福音書16章26節にこうあります。

ーマタイ 16:26ー

人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら何の益があるのでしょうか。その命を買い戻すのに、人は何を差し出せばよいのでしょうか。

ヘブル11章24節にはこうあります。

ーヘブル 11:24ー

信仰によって、モーセは成人したときに、ファラオの娘の息子と呼ばれることを拒み、

ーヘブル 11:25ー

はかない罪の楽しみにふけるよりも、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。

ーヘブル 11:26ー

彼は、キリストのゆえに受ける辱めを、エジプトの宝にまさる大きな富と考えました。それは、与えられる報いから目を離さなかったからでした。

エペソ人への手紙2章1節から7節。

ーエペソ 2:1ー

さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、

—エペソ 2:2—

かつては、それらの罪の中であってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。

—エペソ 1:3—

私たちもみな、不従順の子らの中であって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

—エペソ 1:4—

しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、

—エペソ 1:5—

背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。

—エペソ 1:6—

神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちをともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいました。

—エペソ 1:7—

それは、キリスト・イエスにあって私たちに与えられた慈愛によって、この限りなく豊かな恵みを、来たるべき世々に示すためでした。

第二コリント人への手紙 5章 17節、私の大好きな箇所の一つです。

—IIコリント 5:17—

ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

民数記 32章に戻り、6節を取りあげましょう。モーセがこの反抗的な3部族に対して抱いていた怒りを見ることができます。

—民数記 32:6—

モーセはガド族、ルベン族に答えた。「あなたがたの兄弟達は戦いに行くのに、あなたがたはここにどまるというのか。

モーセは怒っており、指導者たちにそれを知らせています。この指導者たちの卑怯な要求がモーセを怒らせました。部族内の信頼関係が崩れています。彼らは神への献身を放棄していたのです。約束の地に入って戦い、約束の地を手に入れるという約束です。彼らは戦いに備えていた兄弟に対して不誠実でした。兄弟と呼び、握手や抱擁を交わした仲間、パンを分け合い一緒に食事をした仲間を、突然見捨てようとするのです。今、彼らが家族と一緒に家に座って、街を築いている間、彼らは兄弟達を見捨てて彼らだけで戦わせたいと思っています。モーセは続けて厳しく非難しました。7節からです。

—民数記 32:7—

どうして、イスラエルの子らの意気をくじいて、主が与えて下さった地へ渡らせないようにするのか。

—民数記 32:8—

あなたがたの父たちも、私がカデシュ・バルネアからその地を調べるために遣わしたとき、そのようにふるまった。

一民数記 32:9一

彼らはエシュコルの谷間で上って行って、その地を見たとき、イスラエルの子らの意気をくじいて、主が与えて下さった地に入って行かないようにした。

一民数記 32:10一

あの日、主は怒りに燃え、誓って言われた。

一民数記 32:11一

『エジプトから上って来た者たちで二十歳以上の者はだれも、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓った地を見ることはない。わたしに従い通さなかったからである。』

一民数記 32:12一

ただ、ケナズ人エフソネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアは別である。彼らが主に従い通したからである。

一民数記 32:13一

事実、主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らを四十年の間、荒野をさまよわせ、主の目に悪であることを行ったその世代の者たちは、ついに、みな死に絶えた。

一民数記 32:14一

そして今、あなたがたが、罪人の子らとして...

モーセはこの3部族に対して語っています。

一民数記 32:14一

そして今、あなたがたが、罪人の子らとしてあなたがたの父に代わって立ち上がり、イスラエルに対する主の燃える怒りを増し加えようとしている。

一民数記 32:15一

あなたがたが背いて主に従わないなら、主は再びこの民をこの荒野に見捨てられる。そしてあなたがたは、この民全体に滅びをもたらすことになるのだ。」

この3部族は自分たちの道を歩みたかったのです。利己的に、自分たちの利益を追求しました。神は彼らの方程式には入っておらず、彼らの国も入っていませんでした。彼らが見ていたのは、今が繁栄のチャンスだということだけでした。彼らの貪欲さが、自分たちが結んだ契約を見えなくしてしまいました。国は神との関係次第で栄えることもあれば、滅びることもあります。神に信頼する国は繁栄するということを、以前にもお伝えしました。信者は約束を守り通す必要があります。また、人々は互いに団結する必要があります。誠実さ、頼りになること、そして信頼が必要です。そうでなければ、ミニストリーや仕事は混乱し、崩壊してしまいかねません。私たちはつまずくこともあります。人々は私たちを見ています。モーセは、これらの反抗的な部族が望むことは、彼らの国を滅ぼすことになりかねないと言いました。しかし、私たちはこれが神の子たちであり、神の国であることを知っています。神はモーセに彼を守ると約束されたように、ヨシュアにもその約束をされました。神はカルバリーチャペル・カネオへに良くしてくださっています。創設から20年間、団結と平和が続いています。JD牧師はその召しに忠実でした。彼は才能ある指導者ですが、誰が私たちを導いているかを知っています。彼は、神がカルバリーチャペル・カネオへを治めておられることを知っています。私は彼が神の御言葉に従ってすべてを行うことを知っています。神の御言葉にないことは何もしません。その結果、主は私たちの交わりを大いに祝福してくださいました。カルバリーチャペル・カネオへは14人ほどで始まりました。半分はJD牧師の家族でした。

今は、神が成長させてくださり、世界的なミニストリーになっています。主はまた、忠実なしもべたち、主を愛し、共に仕える人々を愛するしもべたちを連れてこられました。それが私の日々の祈りです。マタイの福音書 22 章 37 から 40 節で、イエスが私たちに命じられたとおりです。

—マタイ 22:37—

イエスは彼に言われた。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』

—マタイ 22:38—

これが、重要な第一の戒めです。

—マタイ 22:39—

『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。

—マタイ 22:40—

この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」

神がここカルバリーチャペルに平和をもたらし続け、神の御言葉が前進し続けられるように、また、預言アップデートによって、ハワイや世界中の人々が救われるようにお祈りください。民数記とモーセ、ヨシュアに戻りましょう。ヨシュア記 1 章 13 節。ヨシュアはこの 3 部族に、モーセが生きていたときに語ったことをしっかりと思い出させます。彼らは約束をしました。もしそれを破れば、人だけでなく、特に神との間で問題になります。これが交わされた合意です。ヨシュア記 1 章 14 節から 15 節でそれを取り上げています。

—ヨシュア 1:14—

あなたがたの妻子たちと家畜は、モーセがあなたがたに与えた、このヨルダンの川向こうにとどまりなさい。しかし、あなたがた勇士はみな、隊列を組み、あなたがたの兄弟たちより先に渡って行って、彼らを助けなければならない。

—ヨシュア 1:15—

主があなたがたの兄弟たちにも、あなたがたと同様に安息を与え、彼らもあなたがたの神、主が与えようとしておられる地を所有したら、あなたがたは主のしもべモーセがあなたがたに与えた、このヨルダンの川向こう、日の出る方にある自分たちの所有の地に帰り、それを所有することができる。」

これら 3 部族の妻や子どもたちは、そのまま留まることになります。彼らはヨルダン川を渡りませんでした。彼らはヨルダンの東の土地で農業を始めることができました。しかし、これらの部族が守らなければならない譲歩がありました。彼らの軍隊は他の部族とともにヨルダンを渡らなければなりません。この 3 部族の屈強な戦士たちです。約束の地が確保されるまで、何ヶ月、何年かかろうとも、彼らは戦います。すべての部族がこれらの土地の相続権を得た後、この 3 部族は家族のもとに戻り、休むことが出来るでしょう。この 3 部族が大義を放棄しようとしたとき、それはこの国の成功にとって大きな脅威となります。特に力仕事をする戦士たちは、一丸となって約束の地に向かわなければなりません。それは戦いとなるでしょう。神は私たちに、「このような戦いを自分たちで戦おうとしてはならない」と言われます。神は私たちに祈り、神を求めるように召しておられ、神を愛する子どもたちを助けるために待機しておられます。旧約聖書にこんな箇所があります。これは、敬虔な指導者についての聖書の記述の中で、私が大好きなものの一つです。ヨシヤファテ王に対して大軍が押し寄せてきます。彼はユダの王であり、これから起こることを恐れています。彼は、断食と祈りのためにユダ全土を招集しました。

第二歴代誌 20 章 12 節を取りあげます。

— II 歴代誌 20:12—

私たちの神よ。彼らをさばいてくださらないのですか。攻めて来るこの大軍に当たる力は、私たちにはありません。私たちとしては、どうすればよいのか分かりません。ただ、あなたに目を注ぐのみです。」

神に目を向けることは常に良いことです。アーメン？（会衆：アーメン）

— II 歴代誌 20:13—

ユダの人々はみな主の前に立っていた。彼らの幼子たち、妻たち、子どもたちもともにいた。

— II 歴代誌 20:14—

ときに、主の霊が会衆の中で、アサフ族の出であるレビ人ヤハジエルの上に臨んだ。彼はマタンヤの子エイエルの子ベナヤの子ゼカリヤの子である。

私たちはアサフを覚えています。彼はダビデ王の賛美リーダーでした。ヤハジエルはその子孫であり、ヤハジエルはヨシャファテ王の賛美リーダーです。聖霊が彼に臨まれ、彼を通して語られました。これはヤハジエルが王と民に語った言葉です。

— II 歴代誌 20:15—

彼は言った。「ユダのすべての人々、エルサレムの住民、およびヨシャファテ王よ、よく聞いてください。主はあなたがたにこう言われます。『この大軍のゆえに恐れてはならない。おののいてはならない。これはあなたがたの戦いではなく、神の戦いである。』

ヨシャファテと民は祈りました。そして今、神が現れてくださり、この戦いを戦ってくださいます。

— II 歴代誌 20:16—

明日、彼らのところに攻め下れ。見よ、彼らはツイツの坂を上って来る。あなたがたはエルエルの荒野の前、谷の外れで彼らに出会う。

— II 歴代誌 20:17—

この戦いは、あなたがたが戦うのではない。堅く立って、あなたがたとともにおられる主の救いを見よ。ユダとエルサレムよ、恐れてはならない。おののいてはならない。明日、彼らに向かって出陣せよ。主はあなたがたとともにおられる。』」

— II 歴代誌 20:18—

ヨシャファテは地にひれ伏し、ユダのすべての人々とエルサレムの住民も主の前にひれ伏して、主を礼拝した。

— II 歴代誌 20:19—

ケハテの子孫、コラの子孫であるレビ人たちは立ち上がり、大声をあげてイスラエルの神、主を賛美した。

彼らは賛美歌を歌い、主を賛美しました。ヨシャファテはユダの良い王の一人でした。彼は民を神への礼拝に引き戻しました。

— II 歴代誌 20:20—

こうして、彼らは翌朝早く、テコアの荒野へ出陣した。出陣のとき、ヨシャファテは立ち上がって言った。「ユダおよびエルサレムの住民よ、私の言うことを聞け。あなたがたの神、主を信じなさい。そうすれば、あなたがたは堅く立つことができる。主の預言者たちを信じ、勝利を得よ。」

— II 歴代誌 20:21—

彼は民と相談し、主に向かって歌う者たちと、聖なる装いをして賛美する者たちとを任命した。彼らが武装した者の前に出て行って、こう言うためであった。「主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。」

ヨシャファテ王は、賛美チームを軍隊の前に置きました。彼らはおそらく震え上がっていますが、歌を通して主を礼拝し始めると、戦いは始まる前に終わってしまいました。だから、私たちは礼拝の前に主を賛美します。私たちは主を礼拝します。歌を通して主を礼拝しました。私たちは主を賛美し、栄光と誉れを捧げるために歌います。主は、私たちが主について歌うすべての歌詞にふさわしいお方です。私たちは歌いながら、歌うすべてのものを主に感謝します。それは、主からの御言葉を受け取るために私たちの心を整え、神によって礼拝し、導かれるためにメッセンジャーを整えます。

—II 歴代誌 20:22—

彼らが喜びと賛美の声をあげ始めると、主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアンモン人、モアブ人、セイル山の人々を襲わせたので、彼らは打ち負かされた。

—II 歴代誌 20:23—

アンモン人とモアブ人は、セイル山の住民たちに立ち向かい、これを絶滅させ、根絶やしにした。セイルの住民を滅ぼし尽くすと、彼らは互いに戦って滅ぼし合った。

これらの神の敵は同盟を結びました。異なる国々が神の民に対抗するために集まりました。神はこれらの敵を互いに敵対させられました。古くからの部族間の争いだったのかもしれませんが、ユダを滅ぼしに来た者たちは自分たちを滅ぼしてしまいました。

—II 歴代誌 20:24—

ユダの人々が、荒野に面した見張り場の上って、その大軍の方を見渡すと、なんと、死体が野に転がっていた。逃れた者は一人もいなかった。

—II 歴代誌 20:25—

ヨシャファテとその民が分捕り物を奪いに行くと、そこで数多くの武具、衣服、高価な器具を見つけたので、運びきれないほどはぎ取った。分捕り物があまりにも多かったので、奪うのに三日もかかった。

—II 歴代誌 20:26—

四日目に、彼らはベラカの谷に集まり、そこで主をほめたたえた。それゆえ、人々はその場所の名をベラカの谷と呼んで、今日に至っている。

そう、神に戦いを委ねるとき、私たちは神からの勝利の祝福を経験します。ヨシャファテとその民のように、私たちも主から祝福を受け取ります。勝利の後、彼らは主を賛美し、感謝しました。主が私たちにしてくださったすべてのことに感謝することを、常に忘れないようにしましょう。ガド、ルベン、マナセの兵士たちは故郷に帰ることができますが、それは約束の地が確保されてからです。しかし、その人格が見破られ、彼らに対する尊敬は失われてしまいました。欲に目がくらみ、大きな代償を払うことになりました。12部族の間に許しがあったことは確かですが、ヨシュアが決して忘れなかったことはわかっています。私たちは、私たちに対して罪を犯す者を赦すよう求められています。私たちが心から誰かを赦せることを願っていますが、しかし、決して忘れることはありません。最後に、ヨシュア記1章16節から18節。

—ヨシュア 1:16—

彼らはヨシュアに答えた。「あなたが私たちに命じたことは、何でも行います。あなたが遣わすところには、どこでも参ります。

ーヨシュア 1:17ー

私たちは、あらゆる点でモーセに聞き従ったように、あなたに聞き従います。どうかあなたの神、主が、モーセとともにおられたように、あなたとともにおられますように。

ーヨシュア 1:18ー

あなたの命令に逆らい、あなたが私たちに命じることばに聞き従わない者はみな、殺されなければなりません。あなたは、ただ強く雄々しくあってください。」

ヨシュアは、ほとんど戦いを放棄していたマナサに集まった反抗的な部族たちの返事を喜びます。恥を忍んで、彼らはヨシュアと一緒にいくことを約束しました。彼らは公に懲らしめられました。きっと彼らは償いをしたかったのでしょう。だから、彼らは団結と忠誠を呼びかけています。反抗する者は誰でも死刑に処すべきだと宣言しています。彼らを含むイスラエルは、戦いを放棄する者がいれば死刑に処されるという勅令の下に置かれることとなります。大きな仕事を前にした指導者として、この命令はヨシュアにある程度の安心感を与えたに違いありませんが、彼は人の言葉に信頼を置いていません。戦いが激しさを増すとき、彼らの行動が物語るでしょう。ヨシュアはまだ神に信頼と頼りを置く必要があります。彼が模範としたモーセがそうであったように、彼は日々、絶え間ない祈りによって主を求め続けなければなりません。彼は神の民の模範となり、神を第一とする生活を通して、また神の民に同じようにすることを教えることによって、敬虔な指導者がどのように導くべきかを示すのです。アーメン。(会衆：アーメン)

お立ちください。祈りましょう。お父さま、この御言葉に感謝します。主よ、私たちが信仰の民であること、あなたが召してくださった使命に忠実であることを常に忘れないように助けてください。だから私は、主よ、あなたが私たちの心になさろうとしておられることに対して、あなたにすべての賛美と栄光を捧げるために、あなたの御前に参ります。今夜、あなたの御言葉が語られたように、私たちを祝福し、保ち、見守り、守り、私たちの戦いの前に出てくださり、勝利を与えてくださるよう私たちは祈ります。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7